



企画展

バティック

東の神

西の花

彩られた多文化の記憶

2026.5.31_{sun} → 7.12_{sun}

開館日：月曜日～金曜日（※土日祝日は休館）
臨時開館：5月31日（日）・7月12日（日）
開館時間：午前10時～午後4時30分
入館料：無料

〒102-8357
東京都千代田区三番町12 図書館棟地下1階
Tel. 03-5275-5739
URL <https://www.museum.otsuma.ac.jp/>

大妻女子大学博物館

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY MUSEUM



企画展

パティック

東の神、西の花

彩られた多文化の記憶

パティックは、主にインドネシアで受け継がれてきた伝統的な染織品です。無地の布に、溶かした口ウで緻密な模様を描いて防染し、藍や茜、ソガなどの天然染料や、ナフトール染料などの合成染料で染め分ける、ろうけつ染めの技法が用いられ、その繊細な手仕事と鮮やかな色彩は、今なお世界中の人々を魅了し続けています。

インドネシアの歴史は、広大な海を舞台にした交易の歴史でもあります。古くから独自の宮廷文化を誇る王国が並び立ち、海上交易の要所として中国やインド、アラブなどとの交流を深めてきました。16世紀にはヨーロッパ人が渡来し、17世紀初頭以降はオランダによる植民地支配を受けますが、その過程で西洋の感性もまた、この地に深く根を下ろしていきました。パティックに描かれた模様にも多様な文化の影響が色濃く反映されています。

当館では、インドネシアパティックのコレクターであり研究者でもあった竹内葉氏より寄贈を受けた269点のパティックを所蔵しています。そのほとんどが、チャンティンと呼ばれる道具で描かれた一点物のパティック・トゥリス（手描きパティック）です。

本展では、竹内コレクションからインドネシアのジャワ島各地で制作された特色ある模様のパティックを紹介します。重層的な歴史に育まれた多彩なモチーフの数々をお楽しみください。



ACCESS



※千代田区立九段小学校の道路を挟んで向かい側。図書館棟1階入口の右側にあるエレベーターで地下1階にお越し下さい。

JR 総武線「市ヶ谷駅」徒歩 10分
 東京メトロ南北線・有楽町線「市ヶ谷駅」(A3 出口) 徒歩 7分
 都営新宿線「市ヶ谷駅」(A3 出口) 徒歩 7分
 東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」(5 番出口) 徒歩 7分



①影絵人形模様腰衣 (1910 年代) ②菱格子鳥模様腰巻 (1910 年代)
 ③赤頭巾模様肩掛 (20 世紀半ば) ④白雪姫模様腰巻 (1990 年代)
 ⑤花鳥模様腰衣 (20 世紀初め) ⑥龍模様腰巻 (1910 年代)

公式 SNS

f 大妻女子大学博物館



@otsuma_museum



@otsuma_museum



〒102-8357
 東京都千代田区三番町12 図書館棟地下1階
 TEL 03-5275-5739
 URL <https://www.museum.otsuma.ac.jp/>

大妻女子大学博物館

OTSUMA WOMEN'S UNIVERSITY MUSEUM

